

前回のメルマガでは、「物流のラストワンマイル問題」のソリューションとして期待されるドローンに関連する法改正について取り上げました。

今回は、先月当財団で取材したシンガポールでの配送ロボットの現状を紹介します。

同ロボットは日本国内でも「物流のラストワンマイル問題」解決に寄与することが見込まれています。

2023年4月からは、遠隔操作可能で時速6キロ以下で走行する配送ロボットに限り、事業者の事前届け出により、歩道走行が認められる予定です。

シンガポールも日本と同様に高齢化によりドライバー不足が問題となっていますが、配送ロボットに関する動きは日本の先を行っています。

既に、機体の安全性・信頼性について多数の関連当局からお墨付きを得て、“遠隔監視無し”で公道走行可能ができるロボットが実用化されています。

その一例として、シンガポールの空の玄関であるチャンギ空港で、配送ロボットが稼働しています。

同空港第3ターミナルでは、アプリでターミナル内店舗の商品を購入すれば、「コレクションセンター」というスポットまで配送ロボットが運んできます。

購入者は、同センターに行くだけで商品を受け取ることができる仕組みです。

今後は各旅行者の搭乗口まで同ロボットが商品を届けるサービスも検討されています。

実際に配送ロボットが稼働している動画をツイッターに投稿しましたので、どうぞご覧ください。

<https://twitter.com/jidousyakyouiku/status/1602460794595074049>

また同ロボットの開発メーカーは、フードデリバリー事業者とタッグを組み、食品のオーダーから配送、支払いまで完結するアプリを共同で開発中です。

同事業は、来年3月までに事業化される計画です。

尚、今回ご紹介した配送ロボットを始め自動運転技術の開発・導入に積極的なシンガポールでの取材の報告動画は、後日公開予定です。

ご参考) 当財団による国内での配送ロボットに関する調査報告動画(2021年制作・公開)は、以下よりご覧になれます。

「06 ロボット配送で“ラストワンマイル問題”解消へ【前編】“ラストワンマイル問題”とは」

「07 ロボット配送で“ラストワンマイル問題”解消へ【後編】配送ロボットの特徴と課題」

<http://www.jaef.or.jp/6-kurumajuku/johokan/latest-news/index.htm>

---

日本自動車教育振興財団 メルマガ事務局

【読者の皆さまへ】

私どもは、先生方や高校生の皆さんにより有益なご支援を提供してまいりたいと考えております。

つきましては、当財団の事業やご支援メニューについて、ご意見やご要望等をお寄せください(以下のいずれかの方法にてお願いします)。

1. 当メルマガに返信
2. SNSでのコメント、返信

ツイッター <https://twitter.com/jidousyakyouiku>

フェイスブック <https://www.facebook.com/jaef2019/>